

市長所信表明

6月14日市議会本会議において



はじめに

本日、平成28年第2回美祢市議会定例会におきまして、市政運営に対する所信を表明する機会を与えていただき、ありがとうございます。

私は、先の市長選挙におきまして、市民の皆様からのご支援とご理解を賜り、これからの4年間の美祢市の舵取り役を担わせていただくことになりました。

私は、多くの市民の皆様からのさまざまな声を聞いてまいりました。

私への期待の大きさを強く感じておりますし、またその責任の重大さにも改めて身の引き締まる思いです。

この市民の皆様のお気持ちにお応えすべく、四年間、全力で市政運営にあたっていく決意と覚悟をここに誓います。

美祢市は、本年3月、合併から8年を迎えました。

まず、初代市長としてご尽力いただきました前村田市長を始め、関係者の皆様方に対しまして、心から敬意を表しますとともに深く感謝を申し上げます。

私にとりまして、旧美祢市時代を含めると4期13年の市議会議員としての経験はあるものの、市政運営は初めてのことです。

これから先、私に対して厳しいご指摘やご意見もあろうかと思いますが、「美祢市のため」「美祢市民のため」という思いは同じですので、市民の皆様のご期待にお応えできるよう、議員の皆様のご協力をお願いいたします。

さて、私の市政運営に対する基本的な考えを述べたいと思います。

私が今後4年間目指す新しい美祢市の創造のための挑戦は、

1. 市民が主役のまちづくり
2. 住みたくなる、住み続けたいまちの創造
3. 教育環境の充実
4. 地域経済の活性化、雇用の拡大
5. 市行財政改革の推進

を柱として考えています。

これらのことを実現するため、前例や既成概念にとらわれることなく、本当に必要なことにきめ細かなサポートを行うなど、柔軟かつ大胆でメリハリのある施策展開を行ってまいります。

また、これまで実施してきた全ての事業について、今一度、原点に立ち戻ってゼロベースでの視点や、本当に今、「市」が実施しなければならない事業なのかをしっかりと見極める視点をもって、精査してまいります。その上で、今一番必要な施策、将来の美祢市のために最も有効な施策を明確にし、限られた財源と貴重な人材を効率的、効果的に活用していきたいと考えています。

私は、まず基本的な考えをこの所信表明で明らかにさせていただき、今後の施政方針及び予算、条例などにより具体的な形をお示ししたいと考えておりますので、どうかよろしく申し上げます。

新しい美祢市の創造に向けて

1. 市民が主役のまちづくり

私は、「市民の皆様との対話を重視し、市民目線での市政運営を行う」を基本姿勢として、「市民が主役のまちづくり」を進めてまいります。

今回の選挙を通して、市民の皆様とじっくりひざを交え、様々な角度から生の声を聴いてまいりました。市民の圧倒的な声は、地域間の格差や日常生活の不便さへの不満、将来に対する不安です。こうした地域の皆様の生の声に率直に耳を傾け、その声を市政に反映させていくことが、私の使命だと思います。

私は、市民の負託に応え、信頼される市政を確立するためには、職員一人ひとりが常に市民の目線に立ち、法令遵守の意識を高めるとともに、組織全体の透明化を進め、職務を公正に遂行するための仕組みづくりが重要であると考えております。

まずは、市民の皆様と直接対話できる機会と場が必要と考え、就任後直ちに、市役所と美東、秋芳の各総合支所のそれぞれ一階に「移動市長室」を開設したところで

す。今後は、公民館単位で、地域の課題に関するご意見、ご要望を取りまとめ、的確かつ迅速にそれが解決できるシステムを構築してまいります。

また、市民と市役所の距離を縮めるとともに、市役所内部においても私自身と職員が相互に理解し、市民への説明責任を念頭に日常業務を遂行していかなければならないものと考え、風通しの良い職場づくりに取り組んでいます。

一方で、市の業務は多岐にわたり情報量も膨大でありますことから、情報の公開を徹底的に行い、行政の透明性を確保し、市民の皆様に対して、市政に関する情報を分かりやすくお伝えするよう、その課題やテーマに応じた提供の方法を検討してまいります。

こうして、日々の生活に直結した市民目線で行政の無駄を省き、市民のために何が必要なのか、開かれた議論の中で行政運営を行う、市民が主役のまちづくりを、私は目指しています。

2. 住みたくなる、住み続けたいまちの創造

昨年の国勢調査の結果からも、本市の最も重要な政策課題の一つが人口減少対策と認識しています。

本市における人口の流出と少子化は、地域社会の活力を弱めるにとどまらず、維持そのものが困難な事態へと深刻化してきています。

こうした中、高齢者が住み慣れた地域で、いきいきと健康に暮らすことができるまちづくりを進めていくためには、就労機会や健康・生きがいづくり、地域医療や介護体制の充実など、環境や体制の充実が必要だと考えています。

そのために、高齢者をはじめ市民が主体的に健康づくりに取り組めるよう、生涯にわたり身近でスポーツや文化活動に親しめる環境づくりや、高齢者が積極的に社会参加できる仕組みづくりに取り組みます。

また、高齢者が安心して住み慣れた地域で暮らせるよう、二つの市立病院を維持し、保健、医療、介護を一体的に提供する地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みを加速させます。

一方で、これからは、若い人が子育てしやすい環境づくりに特に力を注いでまいります。

私は、少子化の原因の一つとして、将来への経済的負担や核家族化の進展による子育てへの不安感、孤立感の高まりなどから、出産、育児をためらう人が増えているのではと考えています。

そうした子育てに関する保護者の悩みや不安感を取り除き、安心して楽しく子育てができるようにするためには、妊娠、出産から子育て期にわたる切れ目ない支援策を充実していくことが不可欠です。

出産、子育てへの支援を行政だけでなく、民間事業者や市民団体、NPOなど、あるいはシニア世代や高齢者と連携、協力して行っていく仕組みや仕掛けをすることで、出生率の向上と、これから子育てを行おうとする世帯や現役の子育て世代から、本市が選ばれるまちにしていくことができると考えています。

そして何より、美祢市は、世界に誇れるジオポイントに恵まれた大地の真ただ中にあるのです。この地に住むことのすばらしさを、市民にもっと実感としてご理解いただけるよう、取り組んでまいります。

このたび策定した、生涯活躍のまち構想、いわゆる美祢市版CCRC構想も、こうした考えに基づくものとなっており、市民が安心して、質の高い生活を送ることができ、子育て世代の方にも高齢の方にも「美祢市に住み続けたい」、市外の方には「美祢市に住んでみたい」と思っただけのまちづくりを目指してまいります。

3. 教育環境の充実

現在、社会の枠組みや価値観が大きく変わりつつあり、またその動きは、グローバルに、そして多様であります。

このような時代のなかで、美祢市の子どもたちが未来に向けて夢を持ち、夢に向かって挑戦することが大切であると考えています。

私は、新しい美祢市の目指す都市像として「教育充実都市」を打ち出し、これまで以上に未来を担う子どもたちの成長を支え、子どもの夢と未来が輝く、可能性を最大限に伸ばせるまちの実現を目指します。

幼児教育から、小・中学校教育、そして高等学校まで、市内教育環境の一層の充実を図り、確かな学力の向上を図ることは、まちの魅力を高め、広くアピールできる柱になると考えています。

子供たち一人ひとりとしっかりと向き合い、学ぶ楽しさを実感してもらえよう教育環境を充実させ、多くの人に「この美祢市で学びたい、育てたい」と思っただけのよう関係機関とも連携して取り組みを進めます。